

2011年度事業・活動報告

事業概要

協会の3事業年度目を迎えた2011年度は、2010年度末の3月11日に起こった東日本大震災の影響で、4月、5月は自粛ムードの中で、研修事業などの開催は控えざるを得なかった。他方、被災者支援、復興支援に対して多くの寄付が寄せられたことから、寄付に対する社会的な関心がたかまり、新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミからの取材が増えた。マスコミ報道の中で昨年発行の「寄付白書 2010」及び、震災特集を組んで今年度発行した「寄付白書 2011」が引用されることも多々あった。

また、今年度は、認定ファンドレイザー資格制度を創設。これまで協会が蓄積してきたファンドレイジングに関する「知」と「人材」を集約できたことで、制度設計、研修コンテンツの作成、資格取得のための研修事業などをスムーズに展開できた。その結果、2012年2月の第1回「准認定ファンドレイザー必須研修」では、当初の予想を超える300余名の受講生を得た。

また、第3回目を迎えたファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本 2012」では、昨年比200名増の800余名（キャンセル待ちで参加できなかった者100余名を含む）の参加申し込み者を得、全30セッションと15の特別プログラムを提供した。

加えて、「新しい公共」の関連事業に、業務委託の4県を含めた13県で参画。地方展開の強化が図れた。なかでも、「ファンドレイジング・日本 in 高知」では、当協会の企画のもとに330名の参加を得て、地方でのファンドレイジングイベントの成功事例となった。

また、昨年度に公立小・中学・高校の5教室で実証実験を重ねたフィランソロピー教育「寄付の教室」については、今年度は32教室でモデル授業を展開。教育現場での寄付者教育を本格化させることができた。

このように、震災後の被災者支援に対する寄付の機運と関心の高まりのなかで、初年度、2年度の事業成果を活かしながら、継続事業と新規事業を通じて「寄付については日本ファンドレイジング協会」といったポジショニングが確立した1年間だった。

本事業完了時点で、総収入は約5986万円（前年度5110万円）（内、日本財団助成金：2650万円）を得、次期繰越金は約2246万円となり、財政の強化を図りつつある。日本財団の助成金以外の自主獲得財源として約3336万円（全体の56%）を得たことで、自主財源比率を確実に伸ばしている。

※2010年度は自主財源1800万円（全体の35%）

2009年度は自主財源1210万円（全体の31%）

なお、2012年度は約6550万円の総収入を予算化している。日本財団からの助成金は2350万円。自主財源比率64%を目指す。

本年度の実施事業項目は下記の通り。

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化
2. 総会・理事会の開催
3. 支援者組織化
4. 広報
5. その他

<2> 寄付文化の醸成及び非営利組織の資金開拓力の強化

1. 研修事業
2. ファンドレイジング大会の開催
3. 出版事業
4. 普及啓蒙事業
5. 認定ファンドレイザー制度
6. その他

<事業内容>

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化

職員雇用：

2011年10月1日より、同年12月に産休・育児休暇に入る職員(2012年5月職場復帰予定)の補てんと認定ファンドレイザー制度の推進のために職員1名を雇用した。合わせて、ファンドレイジングネットのサイト管理、ファンドレイジング大会開催などについて、必要時にアルバイトの雇用も行った。

2. 総会・理事会の開催

1) 総会開催

① 2011年6月23日に2011年度の通常総会を開催。前年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画を決議した。なお、総会では、渋澤理事が、震災と市民活動についての特別講演を行っ

た。

② 2012年2月4日に臨時総会を開催。現在の理事会に、山北洋二（あしなが育英会常勤監事）と菅文彦（コース・アクション代表）の2名を追加で任命することが決定された。

2) 理事会開催

今年度は、下記のとおり、4回の理事会を開催した。

2011年

6月8日：第10回理事会

- ・2011年通常総会議案書決定

12月9日：第11回理事会

- ・認定ファンドレイザー制度について
- ・理事の追加に関して
- ・ファンドレイジング行動基準ガイドラインについて

2012年

1月16日：第12回理事会

- ・ファンドレイジング大賞の選考
- ・2月4日臨時総会の議案書確定

3月30日：第13回理事会

- ・2012年度の暫定事業計画
- ・2012年度の暫定予算計画

3. 支援者の組織化

1) 会員拡大

会員数は、個人・法人をあわせて、455人となり当初の目標350人を上回った。

2012年3月31日現在の会員数は下記のとおり。

運営会員	賛同会員（個人）	賛同会員（NPO）	賛同会員（企業）	総数
80	328	44	3	455

また、会員の継続率を上げるために期限切れ1か月前には継続依頼レターを、未納金者には期限切れ1週間前、さらに権利喪失直前にメールにて継続を依頼。その結果、一般的に継続率が低いとされる「1年目」においても7割の継続を維持した。

2) ボランティアの組織化

「JFRAボランティアデー」を中心に積極的にボランティア参加を募り、協会の活動紹介、交流とともに、折々、ジャーナルの発送、セミナー、ファンドレイジング大会等で協力を得た。特に、ファンドレイジング大会では、40人のボランティアが大会の開催準備と当日の運営に協力した。

2011年

6月

日時：6月28日（火）19：00～20：30

発送などのボランティア作業

7月

日時：7月26日（火）19：00～20：30

発送作業と合わせて、JFRAボランティアチーム結成

8月

日時：8月30日（火）19：00～20：30

発送作業と合わせて、ボランティアを倍増するための意見交換

9月

日時：9月27日（火）19：00～20：30

発送作業と合わせて、ボランティア業務について意見交換

10月

日時：10月18日（火）19：00～20：30

FRJ2012ボランティア作業

11月

日時：11月30日（火）19：00～20：30

FRJ2012ボランティア作業

2012年

12月

日時：12月21日（火）19：00～20：30

ジャーナル発送作業

1月

日時：1月24日（火）19：00～20：30

FRJ2012ボランティア作業

日時：1月31日（火）19：00～20：30

FRJ2012ボランティア作業

2月

日時：2月28日（火）19：00～20：30

FRJ2012振り返り

3月

日時：3月27日（火）19：00～20：30

ジャーナル発送作業

3) プロボノやインターンの活用

研究会やセミナーの報告文作成（大学生・インターン）、ファンドレイジング行動基準策定（監査法人勤務・公認会計士プロボノ）などで、各種事業に専門性のあるボランティアに協力してもらった。

また、下記の4名のインターンを受け入れて事務局業務の補佐をしてもらった。

- ・2011年12月1日～13日：静岡県の中間支援組織「東海道・吉原宿」から1名
- ・2011年12月14日～2012年3月1日：「ネイチャリング・プロジェクト」から1名
- ・2012年2月7日～14日：「ひろしまNPOセンター」から1名
- ・2012年3月12日から3月30日：香港大学MBA在学生在が個人として1名

4. 広報

1) マスコミ報道実績

協会では、これまでに接触のあったマスコミ関係者に対して、折々、個々に協会の活動に関して情報提供をし続けている。その結果、「寄付に関して」の取材を受けることが多々ある。とりわけ2011年度は、震災関連寄付が社会的にも注目され、多くの取材を受けた。

取材後に報道された実績は以下の通り。

2011年

- 4月1日 東京FMラジオ 「クロノス」
- 4月7日 産経新聞 「広がる寄付サイト ネット募金“元年”」
- 4月14日 朝日新聞 「〇〇すると義援金」
- 4月29日 TBSテレビ 「ひるおび」
- 5月8日 日本経済新聞 「寄付の税額控除 賢く利用」
- 5月25日 生産性新聞 「市民社会と企業をつなぐ『組織内社会起業家』の育成を」
- 5月30日 TBSテレビ ニュースバード 「ニュースの視点『東日本大震災からみる日本の寄付』」

- 5月31日 読売新聞 「お金の使い道を見極め 『危険性』も情報公開を」
- 6月 4日 日経トレンディ 「キーワードからみる消費」
- 6月 6日 朝日新聞 「大震災と経済 復興に向けて」
- 6月24日 山形新聞 「被災3県へ『復興の役に』 ふるさと納税急増」
- 7月19日 雑誌「はいから」 「寄付付き商品で息の長い支援を」
- 9月28日 朝日新聞 「寄付文化は広がるか」
- 11月29日 NHKラジオ第一 「“寄付の教室”の取り組みについて」
(「ラジオあさいちばん～時の話題」)
- 12月 5日 日経産業新聞 「日本企業の寄付元年」
- 12月 9日 宮崎日日新聞 「寄付の主旨伝えて」
- 12月15日 日刊スポーツ 「タイガーマスク運動」

2012年

- 1月 6日 朝日新聞 「かなわぬ想い『誰か』に託し」
- 1月18日 夕刊フジ 「寄付で手軽に国際貢献」
- 2月14日 日本経済新聞 「震災寄付金4400億円に」
- 2月14日 読売新聞 「古本売ってニート支援」
- 2月16日 毎日新聞 「震災の寄付金 確定申告を」
- 2月18日 読売新聞 「公益活動 定期的に支援」
- 2月26日 産経新聞 「震災義援金 控除は？」
- 3月22日 朝日新聞 「考えて使う 世界を 未来を一教育あしたへ5 お金、いま学ぶ」

2) CANPANブログでの情報発信

協会の公式ホームページとは別に、CANPANブログにて、「事務局便り」と題して、協会の動きなどを掲載。1年間で167本のブログ記事を掲載した。

3) 東日本大震災寄付者のサイト「I donated for Japan」

昨年度末に、東日本大震災被災者支援へ寄付した人たちの寄付に込められた想いを共有する場、「I donated for Japan」という題名のページをfacebook上に開設した。その後の1年間に、国内外から4946人の参加を得た。

5. その他

商標登録：

今後、新規事業を展開する中で、協会ブランドを確立していくために、以下の事業名称などを商標登録申請した。(平成24年5月30日現在、①は審査中。②は登録済)

- ① 社会貢献力検定(認定ファンドレイザー制度における下級の資格として2012年発足予定)
- ② 寄付の教室(2010年度から開始したフィランソロピー教育の「呼称」)

<2> 寄付文化革新事業

1. 研修事業

1) ファンドレイジングセミナー開催（全3回）

一般向けセミナーとして、広くNPO関係者などを対象としたセミナーを3回開催した。

第1回 「子どもの寄付教育を考える」

日時：2011年7月5日（火）18：30～20：30

参加者数：38人

アンケート結果：満足度4.25 わかりやすさ4.53

第2回 「つながりを楽しみながら社会を変えていく 創造的なコミュニティの創り方」

日時：2011年9月5日（月）18：30～20：30

講師：山名清隆氏（ソーシャルコンテンツプロデューサー・株式会社SCOP代表）

参加者数：97人

アンケート結果：満足度4.65 わかりやすさ4.65

第3回 「戦略的な大口寄付獲得と遺贈寄付設計」

日時：10月20日（木）18：30～20：30

講師：マルタ・M・レジュコフスキー氏（グローバルフィランソロピック

ビジネスディベロップメントディレクター シニアコンサルタント）

早坂毅氏（横浜市立大学講師・税理士）

参加者数：121人

アンケート結果：満足度4.16 わかりやすさ4.23

いずれのセミナーも、参加者へのアンケートでは、満足度、わかりやすさ、ともに5点満点の4点を超えており、成功裡に終わったと言える。

2) ファンドレイジング研究会開催（全9回）

「ファンドレイジング研究会」は、当協会の会員を対象として、NPOの資金調達改善の事例研究やスキルアップ研修を実施することを目的とするもの。

この研究会は、相互の学びあいの環境を担保するために人数を25名程度としている。参加型で開催することで、ノウハウや知見の集約共有を図っている。

昨年同様、月1回程度のペースで開催予定であったが、東日本大震災の影響で2011年7月まで開催を見合わせ、内容も震災関連の事例を盛り込んだ。

研究会終了後には「1時間1本勝負」と題した懇親会を開催。毎回、ほとんどの参加者が参加し、講師

を加えて参加者間の交流やフィードバックの場になっている。

今年度は、計9回の開催となった。なお、開催回数は初年度からの累積で表示。

第18回

2011年7月12日 18:30～20:30

「震災と寄付」

講師：阿部陽一郎 氏（中央共同募金会）

長谷川隆治 氏（日本財団）

吉村敏 氏（ボーイスカウト日本連盟）

第19回

2011年8月9日 18:30～20:30

「寄付税制改正から寄付信託まで徹底解説」

講師：関口宏聡 氏（シーズ・市民を支える制度をつくる会）

合田政生 氏（住友信託銀行）

上田晋 氏（プルデンシャル生命）

本多巨樹 氏（プルデンシャル生命）

第20回

2011年9月13日 18:30～20:30

「社会の急激な変化とファンドレイジング」

講師：梶川純子 氏（東京交響楽団）

原蜜 氏（越後妻有里山協働機構／株式会社アートフロントギャラリー）

第21回

2011年10月11日 18:30～20:30

「寄付者データベースを活用したファンドレイジング ～Microsoft Dynamics徹底活用研究～」

講師：吉田健治 氏（日本NPOセンター）

第22回

2011年11月8日 18:30～20:30

「日本発のファンドレイジング！」

講師：小林智子 氏（TABLE FOR TWO International）

渡邊清孝 氏（ハンガー・フリー・ワールド）

石川圭 氏（ハンガー・フリー・ワールド）

※第21回研究会のフォローアップミーティング

2011年11月29日 18:30～20:30

「寄付者データベースを活用したファンドレイジング ～Microsoft Dynamics徹底活用研究～」

講師：吉田健治 氏（日本NPOセンター）

第23回

2011年12月13日 18:30～20:30

「ファンドレイジングに活かす7つのポイント ～NPO会計改善&寄付税制改正をテコに成長する～」

講師：脇坂誠也 氏（脇坂税務会計事務所）

第24回

2012年1月10日 18:30～20:30

「ダイレクトメールを活かしたファンドレイジング」

講師：岡 徹氏（ダイレクトマーケティングジャパン株式会社）

第25回

2012年3月13日 18:30～20:30

「FRJ2012学びと気づき共有会」

3) 委託事業

今年度は政府の「新しい公共」施策を受けて、全国の自治体が新しい公共支援事業を展開。その中で、協会は、千葉県、山形県、埼玉県、高知県のファンドレイジング推進事業に業務委託を受けて参画した。

■千葉県ファンドレイザー育成講座

千葉県内のNPOで、これから本格的に寄付を柱とした資金調達（ファンドレイジング）を実施しようとしているNPO法人（9団体）、任意団体（5団体）、個人（3名）、および、その指導を企図している自治体（1団体）を対象に研修を実施。

第1回 9月6日「ファンドレイジング概論」

講師：鶴尾 雅隆（日本ファンドレイジング協会 事務局長）

第2回 9月13日「ファンドレイジング7つのステップ」

講師：徳永 洋子（日本ファンドレイジング協会 事務局次長）

第3回 9月27日「アクションプランの策定」

講師：徳永 洋子（日本ファンドレイジング協会 事務局次長）

第4回 10月12日「共感を得るためのコミュニケーションメッセージの抽出からツール作成」

講師：イノウエヨシオ（日本ファンドレイジング協会 プログラムマネージャー）

- 第5回 10月25日「様々なファンドレイジング手法の紹介」
講師：伊藤 美歩氏（日本ファンドレイジング協会 理事）
- 第6回 11月 8日 「ファンドレイジングのステップアップ戦略」
講師：伊藤 美歩氏（日本ファンドレイジング協会 理事）
- 第7回 11月22日「ファンドレイジングに関する会計、税務、支援税制」
講師：脇坂 誠也氏（税理士、日本ファンドレイジング協会 理事）
- 第8回 2月4・5日 「ファンドレイジング・日本2012」における受講者の集会
- 第9回 2月14日 各団体のアクションプランへのアドバイス
講師：徳永洋子（日本ファンドレイジング協会 事務局次長）

合わせて、千葉県内の11団体のファンドレイジング事例をヒアリング調査・小冊子にまとめ受講者に配布。

■山形県ファンドレイジング講座（山形市・鶴岡市 各5回）

本事業では、特定非営利活動促進法及び所得税法等の改正により、NPO法人に対する寄付環境が整いつつある中で、寄付募集に係るノウハウをNPO等が身につけ積極的に活動することで、NPO活動を支える基盤を確立するため、山形市と鶴岡市で寄付募集に関するノウハウを体系的に学ぶ「ファンドレイジングセミナー」を開催し、寄付募集担当者の養成を図った。

- 第1回 山形：9/18（日） 鶴岡：9/17（土）
「ファンドレイジングとは」
（日本ファンドレイジング協会常務理事・事務局長 鶴尾雅隆）
- 第2回 山形：10/8（土） 鶴岡：10/9（日）
「インターネットを活用したファンドレイジング」
（コース・アクション代表 菅 文彦）
- 第3回 山形：10/21（金） 鶴岡：10/22（土）
「寄付・会費集めのテクニック」
（日本ファンドレイジング協会理事/アーツブリッジ代表 伊藤美歩）
- 第4回 山形：11/5（土） 鶴岡：11/6（日）
「助成金を活用した事業」
（日本ファンドレイジング協会事務局次長 徳永洋子）

第5回 山形：11/26（土） 鶴岡：11/27（日）

「ファンドレイジングプランを策定するには」

（日本ファンドレイジング協会事務局次長 徳永洋子）

■埼玉県商工団体等と連携した寄附促進広報事業のためのセミナー開催

「これからの時代の新しい企業価値の創出」 一経営強化につながる社会貢献とは

【講師】 洪澤健（シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役 CEO）

鶴尾雅隆（日本ファンドレイジング協会常務理事）

【日時】 平成24年2月23日 18時30分～20時30分

【会場】 大宮ソニックシティ 906 会議室

■高知県ファンドレイジング推進事業

「ファンドレイジング・ジャパンinこうち」を開催する中で、NPO等の活動に欠かせない資金調達に関わる新しい社会の動きや、NPO・地域づくり団体・企業など様々な分野でのファンドレイジングに関わる取り組みの事例など、参加者が新しい気づきや学びを得られるような内容の企画（外部講師5名）及び開催までの調整、コンテンツ提供（鶴尾・徳永・大石が登壇）等を行った。その結果、地方開催のイベントにもかかわらず300余名の参加を得て高い評価を得た。

2. ファンドレイジング大会開催

2012年2月4日・5日、日本財団ビルにて、第3回目となるファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2012～つなげ！未来へ…～」を開催し、全国から700名の参加者を得た。

今回はアメリカから米国ファンドレイジング協会会長のアンドリュー・ワット氏とCFREのシャーリーン・ホール氏を招へい。基調講演を行った。2日間、全30セッションと15の特別プログラムでは、ファンドレイジングのノウハウ、ツール、成功事例などが発表された。

クロージングセッションでは、「第3回日本ファンドレイジング大賞」を「NPO法人ハンガー・フリー・ワールド」に授与した。

この大会の運営には約120人の講師・運営・ボランティアが協力。協賛団体・企業による展示ブースコーナーでは、ファンドレイジングに有効なサービスやグッズが紹介され、参加者の人気を集めた。

書籍販売コーナーでも、講師の著書を中心に、約30種の書籍を委託販売し、好評を得た。

1) プレイベント

今年度は、2月3日に下記のオプションルツアーを実施した。

- ① あしなが育英会（前年度「ファンドレイジング大賞」の受賞団体）見学
- ② アドボカシーの現場見学（国会見学と鳩山元首相をはじめとするNPO議連の議員との交流）

2) 開催告知の広報活動

協会では、この大会開催を毎年のメインイベントと位置付け、集客、及び協会の認知度の向上を図るべく、事前の広報活動に注力した。特に、大会開催概要2万部作成。関係機関の協力も得て、日本各地に配布した。

3) 開催への他団体・企業からの協力

～助成～

公益財団法人 日本財団

公益財団法人 トラスト60

～協賛～

アメリカ合衆国大使館

日本マイクロソフト株式会社

プルデンシャル生命保険株式会社

Blackbaud, Inc.

富士ゼロックス東京株式会社

ダイレクトマーケティングジャパン株式会社

株式会社エースデザイン

株式会社バリューボックス

株式会社ファンドレックス

合同会社コース・アクション

セールスフォース・ドットコム ファウンデーション

ソフトバンクモバイル株式会社

株式会社ソノリテ

～後援～

内閣府

外務省

在日米国商工会議所

NPO 法人NPO会計税務専門家ネットワーク

社会福祉法人大阪ボランティア協会

公益社団法人企業メセナ協議会

公益財団法人公益法人協会

NPO 法人国際協力NGOセンター (JANIC)
 独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば
 NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
 公益財団法人助成財団センター
 東京ボランティア・市民活動センター
 NPO 法人日本NPOセンター
 公益社団法人日本フィランソロピー協会

4) その他

- ① 大会前日の2月3日には、今年度発足させた「認定ファンドレイザー資格制度」に関連する第1回の必修研修を開催。大会両日への参加によって得られる「選択研修ポイント」と合わせることで「准認定ファンドレイザー」資格取得のための受験資格が得られることから、3日間連続で参加した人が多かった。
- ② 大会の記録として、ビデオを作成。このビデオは、DVDとして関係者に配布した。

3. 出版事業

1) 寄付白書2011

昨年度創刊した寄付白書の今年度版として「寄付白書2011」を経団連出版から創刊した。

今号での特集は、当初予定の「高齢者の寄付」に加えて、「東日本大震災への寄付」を盛り込んだ。このことで、出版後にはマスコミ報道時での引用など、広く活用されることになった。

「寄付白書2011」の発行については、「発行パートナー」を募集し、94万円の寄付を得た。

この白書は、全国120の主要大学図書館・公立図書館に寄贈。

2) 季刊誌として、ファンドレイジングジャーナル、「FUNDRAISING」を第7号～第10号までの計4号を発行した。発行日時等は以下の通り。

号数	発行日	特集タイトル
第7号	2011/4/1	FRJ2011/ファンドレイジング・日本2011
第8号	2011/7/1	東日本大震災の中での寄付
第9号	2011/10/1	認定ファンドレイザー制度始まる!
第10号	2012/1/1	ファンドレイジング・日本2012

2012.3月末日現在の定期購読者数

種別	人数	備考
定期購読者	44	
会員数	328	有効期限（会員期限切れが6か月未満）
総数	372	

その他、協会主催セミナー、ファンドレイジング大会などでバックナンバーも含めて販売した。

3) ブックレット「ファンドレイジング入門」（500円）の出版

2012年2月にファンドレイジングジャーナルの記事などを中心にしたブックレットを初めて出版。大会や地域でのセミナーなどで販売した。すでに500部のうち、200部を販売。今後もこれまで協会が蓄えてきた各種コンテンツを、こうした形でまとめ上げて提供していきたい。

4. 普及啓蒙事業

1) フィランソロピー教育「寄付の教室」

協会では、フィランソロピー社会の実現に向けて、子どもたちへの寄付者教育を行うこととして、昨年度にワーキンググループを立ち上げて実証実験授業を2校で実施。今年度は内容を統一してモデル事業化して下記で授業を行った。

開催日：2011年9月20日

学校名：福岡県立遠賀高等学校

参加者数：144名（4クラス）

開催日：2011年10月19日

学校名：新潟市立上山中学校

参加者数：20名（1クラス）

開催日：2011年10月25日

学校名：鶴ヶ島市立西中学校

参加者数：136名（4クラス）

開催日：2011年10月31日

学校名：益田市立中西小学校

参加者数：25名（2クラス）

開催日：2011年11月5日
学校名：福岡県私立愛真高等学校
参加者数：46名（3クラス）

開催日：2011年11月16日
学校名：鶴ヶ島市立南中学校
参加者数：90名（3クラス）

開催日：2011年11月17日
学校名：福岡県立若松高等学校
参加者数：160名（4クラス）

開催日：2011年11月18日
学校名：鶴ヶ島市立西中学校
参加者数：136名（4クラス）

開催日：2012年3月3日
学校名：ファンドレイジング in 高知
参加者数：40名（1クラス）

2) 「ファンドレイジング行動基準・ガイドライン」策定

前年度、協会では、ファンドレイザーが守るべき行動基準を策定。この基準の解説として、「ファンドレイジング行動基準・ガイドライン」を作成。

12月に広く意見募集を行い、その結果を反映させて、認定ファンドレイザーが守るべき倫理基準として公開した。

5. 認定ファンドレイザー制度

協会では、設立当初より、日本の非営利民間セクターに対する寄付市場拡大に資するため、ファンドレイザーのスキル向上、高度な倫理観を有するファンドレイザーの育成、後進の指導や健全な寄付市場の形成に向けて指導的立場に立つ人材の育成を目的として認定ファンドレイザー資格認定制度の発足をめざし、海外の認定制度に関する情報収集、海外の認定機関との意見交換などを続けてきた。

今年度、その「認定ファンドレイザー制度」の具体的な制度設計を行い、2011年10月にリリース。この制度は、「准認定ファンドレイザー」と「認定ファンドレイザー」の2段階の資格からなる。それぞれに用意された「必修研修」を受け、ファンドレイジングに関する協会主催のセミナー（大会も含む）や、各地で行われるファンドレイジング関連研修を受けて一定のポイントを得ることで受験

資格が得られる。

2012年2月3日に、第一回の「准認定ファンドレイザー必修研修」を開催した。この研修には、予想を大幅に上回る300名が参加。会場も国連大学ビルに変更して開催した。研修に当たっては、独自の300ページからなる教則本を作成。ファンドレイジングの全体的な枠組みを示した。

また、2月4日・5日に開催した「ファンドレイジング・日本2012」には、米国の認定ファンドレイザー資格認定機関 CFREインターナショナルの会長のシャーリーン・ホール氏を招へいし、海外における認定ファンドレイザーの役割などを講演してもらい、NPO関係者への理解の促進をはかった。合わせて、ホール氏と協会で会合をもって、今後、この資格認定事業を展開する上でのアドバイスを受けた。

今後、認定ファンドレイザーを目指す人たちに対しては、当協会主催の必修研修・選択研修、さらに選択研修に関しては、地域の団体が開催する「日本ファンドレイジング協会認定研修」を受講してもらった上で、資格認定試験に臨んでもらうことで、地域で広がりが生れることが期待できる。

この資格制度については、次の「認定ファンドレイザー資格認定制度資格」をご参照。

	准認定ファンドレイザー	認定ファンドレイザー
スキル	組織の成長戦略、寄付・会費・助成金を得るための戦略や基本スキル	組織の成長戦略、寄付・会費・助成金に加えて、事業収入、補助金や融資なども含めた総合的な財源調達スキル
実務経験	未経験者も可	ファンドレイジング関連の有償実務経験 3年以上
試験実施	年2回	年1回
受験資格	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満18歳以上 ・資格試験実施日から起算して過去5年以内に当協会が実施する「准認定ファンドレイザー必修研修」を受講している ・資格試験実施日から起算して過去5年以内に当協会が実施または認定する「選択研修」を9ポイント以上受講している 	准認定ファンドレイザー修得者のうち、以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・満18歳以上 ・ファンドレイジング関連の有償実務経験3年以上 ・資格試験実施日から起算して過去5年以内に当協会が実施する「認定ファンドレイザー必修研修2日間」を受講している ・資格試験実施日から起算して過去5年以内に当協会が実施または認定する「選択研修」を6ポイント以上受講している
必修研修	以下の条件を満たす者	以下の条件を満たす者

受講の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・満18歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・満18歳以上 ・ファンドレイジング関連の有償実務経験3年以上 ・准認定ファンドレイザー資格を有する ・当協会の会費滞納がないこと
研修ポイントの有効期限	研修終了日（複数日の連絡セミナーの場合は最終日）の5年後応当日	
資格認定の条件	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・受験資格を充たす者が、当協会が実施する准認定ファンドレイザー資格試験に合格する ・当協会の個人会員である 	以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> ・受験資格を充たす者が、当協会が実施する認定ファンドレイザー資格試験に合格する ・当協会の個人会員である
資格の有効期限	新規資格取得又は更新日より5年間	
資格の更新	更新には以下の条件を満たす必要がある <ul style="list-style-type: none"> ・当協会の個人会員として会員資格を有し年会費の滞納がないこと ・資格取得時又は前回更新時より5年以内に、新たに選択研修20ポイント以上の研修を受講している 	

6. その他

1) 講師派遣

今年度も、各地からの講師派遣依頼を受けて地域でのファンドレイジングの発展に貢献することができた。

開催日時	所属 / 事業名 / 会場名
2011/5/11 13:30～ 16:30	特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・ commons 連続講座「寄付社会と NPO」 つくば市民大学
2011/5/20 15:10～ 16:10	花王株式会社 コーポレートコミュニケーション部門 社会貢献部 花王ハートポケットクラブ運営委員会 花王株式会社 茅場町事業所
2011/5/23 14:30～ 15:30	大好きいばらき県民会議（茨城県県民運動推進室） 大好きいばらき県民会議総会 茨城県庁
2011/7/2	公益財団法人 武蔵野市国際交流協会

10:30～ 12:30	青年のための国際理解フォーラム 2011 スイングビル
2011/7/26 10:00～ 16:50	ネイチャリング・プロジェクト東京教室 NPO 起業・経営家養成科「社会的事業運営の知識 2」 ネイチャリング・プロジェクト東京教室
2011/7/27 10:00～ 16:50	ネイチャリング・プロジェクト東京教室 NPO 起業・経営家養成科「コミュニケーション」 ネイチャリング・プロジェクト東京教室
2011/7/28 10:00～ 16:50	ネイチャリング・プロジェクト東京教室 NPO 起業・経営家養成科「社会的事業運営の知識 2」 ネイチャリング・プロジェクト東京教室
2011/7/29 10:00～ 16:50	ネイチャリング・プロジェクト東京教室 NPO 起業・経営家養成科「コミュニケーション」 ネイチャリング・プロジェクト東京教室
2011/8/18 15:00～ 17:30 他	中央共同募金会 第 2 回赤い羽根全国ミーティング in Tokyo 東京ファッションタウンビル (TFT ビル) 東館
2012/2/15 13:30 16:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 25 年度熊本県新しい公共支援事業 くまもと県民交流館バレア
2012/2/16 9:30 16:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 26 年度熊本県新しい公共支援事業 熊本高専八代キャンパス駅前ランチ
2011/9/10 14:00～ 17:00	NPO 会計税務専門家ネットワーク ・シンポジウム 2011 in 尾道 尾道公会堂別館
2011/9/21 13:30 16:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 23 年度熊本県新しい公共支援事業 くまもと県民交流館バレア
2011/9/22 9:30 12:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 24 年度熊本県新しい公共支援事業 熊本高専八代キャンパス駅前ランチ
2011/10/4 15:00～ 17:00	財団法人 日本 YMCA 同盟 全国 YMCA 総主事会議 関西セミナーハウス
2011/10/12 18:30～ 19:10	JICA 地球ひろば NGO 課 NGO の皆さんのための JICA メニュー 説明会 JICA 地球ひろば

2011/10/13 14:00～ 17:00	公益社団法人 さわやか福祉財団 寄付で作ろう！みんなのまち 秋葉原 UDX シアター
2011/10/25-26 14:00～ 17:30 他	一般社団法人 プロジェクトデザインセンター 新しい公共支援事業 北海道 NPO サポートセンター会議室
2011/10/26 13:30～ 15:30	特定非営利活動法人 北海道 NPO センター プログラム・オフィサー研修講座 北海道経済センタービル
2011/10/26 19:00～ 21:00	株式会社 ソノリテ 10 月期ソノリテ会 ラ・トゥール神楽坂
2011/10/27	特定非営利活動法人 Green works Green works シンポジウム
2011/10/27-28 16:00～ 18:00 他	公益財団法人 みらいファンド沖縄 おきなわ CSR フォーラム 2011 てんぶすホール
2011/11/11 13:30～ 16:30	高知県ボランティア・NPO センター 企業市民センター 高知共済会館
2011/11/30	公益財団法人 公益法人協会 ワークショップ「日米 CSO の現状と課題」
2011/12/3 13:30～ 17:30	一般社団法人 みやざき公共・協働研究会 NPO の寄付獲得スキルアップ研修と協働交流会 宮崎 JA/AZM ホール別館
2011/12/6 16:00～ 18:00	公益財団法人 日本レクリエーション協会 平成 23 年度組織経営研究会・東日本開場 国立オリンピック記念青少年総合センター
2011/12/11 14:00～ 16:00	特定非営利活動法人 さが市民活動サポートセンター 社会を変える夢を実現する力=ファンドレイジング 武雄市山内公民館
2011/12/15 13:30～ 15:30	社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会 ファンドレイジング研修 新潟市総合福祉会館 大会議室
2011/12/16 16:00～	特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・commons 茨城 NPO 応援ファンド設立準備事業

	茨城県労働福祉会館 3 階会議室
2011/12/17-18 10:00~ 16:00	持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪ NPO の自立を目指す経営研修会 塩尻市市民交流センター えんぱーく
2011/12/12 13:30~ 15:30	公益財団法人 愛知県国際交流協会 国際交流コーディネーター講座 愛知県三の丸庁舎
2012/12/22 13:30~ 16:30	特定非営利活動法人 かがしま NPO 支援センター 共生・協働の地域社会づくり普及協会 かがしま県民交流センター
2012/1/23 13:00~ 17:00	公益財団法人 日本生産性本部 東京都若者社会参加応援セミナー 生産性本部ビル
2012/2/11 14:00~ 17:00	社会福祉法人 大阪ボランティア協会 NPO の「会費」「寄付」拡充のための研修・出張コンサル事業 堺市民会館
2012/2/13 19:00~ 21:30	Joy-Box 循環型社会トークライブ 2011 天神イズムセミナールーム
2012/2/15 13:30 16:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 25 年度熊本県新しい公共支援事業 くまもと県民交流館パレア
2012/2/16 9:30 16:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 26 年度熊本県新しい公共支援事業 熊本高専八代キャンパス駅前ランチ
2012/2/17 13:00~ 14:30	特定非営利活動法人 NPO くまもと 平成 23 年度熊本県新しい公共支援事業 グランメッセ熊本 他
2012/2/16 13:30~ 15:30	特定非営利活動法人 くびき野 NPO サポートセンター NPO 等のためのファンドレイジング講習会 新潟ユニゾンプラザ
2012/2/17-18 13:00~ 15:30 他	一般社団法人 ながさき地域政策研究所 寄付文化の醸成・寄附の促進
2012/3/23 13:30~ 17:00	特定非営利活動法人 アイディング 盛岡市市民協働推進機構設置記念フォーラム 盛岡市観光文化交流センタープラザおでって
2012/2/25-26	公益財団法人 ふるさと島根定住財団

	ファンドレイジング合宿 2012 春 島根県立青少年の家サンレイク
2012/3/9 13:30～ 16:30	特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会 新しい公共支援事業「NPOのためのファンドレイジングセミナー」 甲府市立遊亀公民館・研修室
2012/3/10-11 13:00～ 16:30 他	特定非営利活動法人 大分研究所 ファンドレイジング勉強会 全労済ソレイユ
2012/3/15	国土交通省 北陸地方整備局
2012/3/17-18 13:00～ 17:00 他	秋田市市民生活部秋田市民交流プラザ管理室市民活動センター「市民交流サロン」 アルヴェ市民活動支援連続講座 秋田拠点センターアルヴェ
2012/3/17-18 10:00～ 20:30 他	日本 NPO 学会 NPO 学会第 14 回年次大会 広島市立大学
2012/3/24 10:30～ 17:00	特定非営利活動法人 いよココロザシ大学 ソーシャルファンドレイザー養成講座 松山市総合コミュニティセンター

2) 「ファンドレイジングネット」の運営

2010年4月に、オンラインコミュニティ「ファンドレイジングネット」の運営が、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会から移管された。今年度も引き続き運営。

3) 海外のファンドレイジング協会との連携

日本における唯一最大のファンドレイジング協会であることを内外に示すために、海外のファンドレイジング協会との連携を深めている。また、今後、認定ファンドレイザー資格制度においても、他国と連携して、国際的にも通用する資格制度としていくことを企図している。

具体的には、10月には、国際組織「Resource Alliance」から、国際ファンドレイジング大賞の候補団体に、2010年度「日本ファンドレイジング大賞」受賞団体のエントリー要請があり、「あしなが育英会」を推薦した。

＜2011年度に達成したこと＞

1) 支援者拡大

会員数が、個人・法人をあわせて、455人となり、当初の目標350人を上回ったこと、また、3年を迎えたボランティアデーを通じてボランティアの組織化が進んだ。加えて、今年度は積極的にインターンの受け入れも行い、協会支援者の拡大が図れた。

2) 新しい価値の創出

初年度からの継続事業に加え、フィランソロピー教育「寄付の教室」のモデル事業化と認定ファンドレイザー制度の発足を通じて日本にこれまでなかった新しい価値を生み出す取り組みをスタートさせることができた。

3) 寄付市場形成主体としてのポジション確立

東日本大震災の被災者に対する寄付などで社会的に寄付に対する関心が高まる中で、協会に関するマスコミ報道も増え、国際会議への参加、大会への米国からの講師招聘などを通じて、海外のファンドレイジング協会との交流も深まり、国内外に「日本の寄付市場形成主体」としてのポジショニングを確立することができた。

4) ファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2012」の成功

メインイベントと位置付けているファンドレイジング大会、「ファンドレイジング・日本2012」をセッション数を拡大して開催することができた。さらに、開催に際して、日本マイクロソフト株式会社（100万円）、プルデンシャル生命保険株式会社（50万円）、ソフトバンクモバイル株式会社（10万円）などの大企業の協賛に加え、米国大使館（1万ドル助成）、内閣府（後援）、外務省（後援）、米国商工会議所（後援）といった、社会的な信頼を補強する支援を得ることができた。

5) 認定ファンドレイザー制度の順調なスタート

初年度から、今年度の発足を目途に、海外の制度について情報収集、研修コンテンツの蓄積などを続けてきたことから、その成果をもとに、ち密な制度設計と研修コンテンツの作成がかなった。また、ファンドレイジング大会や寄付白書出版などを通じて日本のファンドレイジングに関するトップランナーとしての地位も固めてきたことから、制度発足直後から、同資格の取得希望者を300名以上（第1回准認定ファンドレイザー必修研修参加者数）募ることができ、順調なスタートが切れた。

6) 自主財源の拡大

日本財団の助成金以外の自主獲得財源として約3336万円（全体の56%）を得た。2010年度は自主財源1800万円（全体の35%）。2009年度は自主財源1210万円（全体の31%）。順調に自主財源を増加させてきている。

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日

《経常収支の部》

[経常収支の部]

【経常収入】

事業 収入

大会	9,533,000
研修会	771,000
ジャーナル発行	440,840
CFR研修	436,000
寄付白書販売	1,673,350
講師派遣等	5,086,021
助成金収入	
日本財団	26,500,000
その他助成金	500,000
会費収入	
運営会員	792,000
賛同会員	4,077,000
寄付金収入	
一般寄付	3,845,830
Giving Japan基金	925,000
その他事業収入	5,283,373
受取利息収入	4,577

経常収入 計

59,867,991

【事業費】

期首棚卸高	4,489,019
期首商品・製品棚卸高	4,489,019
大会	
会議費	2,474,037
業務委託費	347,760
諸謝金	1,360,000
印刷製本費	2,118,648
旅費交通費	821,340
広告宣伝費	518,900
通信運搬費	236,801
雑費	107,710
セミナー・研究会	
諸謝金	405,000
印刷製本費	266,700
旅費交通費	6,000
会議費	6,560
雑費	47,872
ジャーナル発行	
補助作業員給与	1,430,000
印刷製本費	2,863,006
通信運搬費	62,065
諸謝金	742,222
雑費	5,388

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日

寄付白書	
補助作業者給与	1,629,500
印刷製本費	1,908,320
委託費	2,873,500
諸謝金	400,000
雑費	1,280
ファンドレイザー行動基準	
会議費	174,347
広告宣伝費	90,027
認定ファンドレイザー資格	
会議費	545,000
諸謝金	1,180,000
印刷製本費	543,636
旅費交通費	214,990
資料代	64,557
保険料	9,060
FRネット	
補助作業者給与	870,560
業務委託費	215,250
備品消耗品	143,580
フィランソロピー教育	
補助作業者給与	1,629,500
業務委託費	573,270
諸謝金	100,000
旅費交通費	549,295
雑費	9,875
資料代	33,110
事業部門人件費	8,580,000
その他事業支出	
旅費交通費	1,136,550
会議費	70,110
備品消耗品	14,406
諸謝金	1,100,000
通信費	2,610
印刷製本費	153,300
業務委託費	600,000
当期事業費 計	39,235,642
合 計	43,724,661
期末棚卸高	△5,043,619
期末商品・製品棚卸高	△5,043,619
事業費 計	38,681,042

【管理費】

補助作業者給与	3,295,692
法定福利費	1,504,895
福利厚生費	95,838
通 信 費	727,823

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日

通勤費	540,199	
水道光熱費	186,079	
旅費交通費	808,304	
業務委託費	601,800	
研修費	176,731	
会議費	99,165	
備品消耗品費	907,306	
資料収集費	1,960	
印刷経費	623,708	
地代家賃	2,577,645	
保険料	15,710	
租税公課	38,612	
諸会費	42,885	
支払手数料	565,229	
管理諸費	21,000	
雑費	35,973	
管理費計		12,866,554
經常収支差額		8,320,395
[その他資金収支の部]		
【その他資金収入】		
期首棚卸繰入	4,489,019	
その他資金収入計		4,489,019
【その他資金支出】		
ソフトウェア購入支出	399,000	
未払法人税支出	70,000	
その他資金支出計		469,000
当期収支差額		12,340,414
前期繰越収支差額		8,881,221
次期繰越収支差額		21,221,635
《正味財産増減の部》		
【正味財産増加の部】		
当期収支差額	12,340,414	
ソフトウェア購入額	399,000	
正味財産増加の部計		12,739,414
【正味財産減少の部】		
什器備品減価償却額	405,804	
正味財産減少の部計		405,804
当期正味財産増加額		12,333,610
前期繰越正味財産額		10,128,571
当期正味財産合計		22,462,181

※1 資金の範囲は流動資産及び流動負債とする。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

(単位：円)

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

平成24年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金	50,798
普通預金	
三菱東京UFJ銀行	646,450
NPO法人三菱東京UFJ	11,710,900
NPO法人ゆうちょ銀行	2,720,910
ゆうちょ銀行3	<u>1,531,900</u>
現金・預金計	16,660,958

(売上債権)

未収金	<u>80,000</u>
売上債権計	80,000

(棚卸資産)

棚卸資産	<u>5,043,619</u>
棚卸資産計	<u>5,043,619</u>

流動資産合計

21,784,577

【固定資産】

(有形固定資産)

什器備品	<u>402,996</u>
有形固定資産計	402,996

(無形固定資産)

ソフトウェア	<u>352,450</u>
無形固定資産計	352,450

(投資その他の資産)

敷金	<u>485,100</u>
投資その他の資産計	<u>485,100</u>

固定資産合計

1,240,546

資産の部 合計

23,025,123

《負債の部》

【流動負債】

未払金	36,909
預り金	
従業員源泉	480,033
報酬等所源泉	16,000
仮受金	<u>30,000</u>

流動負債計

562,942

負債の部 合計

562,942

正味財産

22,462,181

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

平成24年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	36,909
現金	50,798	預り金	496,033
普通預金	16,610,160	仮受金	30,000
現金・預金計	16,660,958	流動負債計	562,942
(売上債権)		負債の部合計	562,942
未収金	80,000	正味財産の部	
売上債権計	80,000	【正味財産】	
(棚卸資産)		正味財産	22,462,181
棚卸資産	5,043,619	(うち当期正味財産増加額)	12,333,610
棚卸資産計	5,043,619	正味財産計	22,462,181
流動資産合計	21,784,577	正味財産の部合計	22,462,181
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器備品	402,996		
有形固定資産計	402,996		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	352,450		
無形固定資産計	352,450		
(投資その他の資産)			
敷金	485,100		
投資その他の資産計	485,100		
固定資産合計	1,240,546		
資産の部合計	23,025,123	負債・正味財産の部合計	23,025,123

監査報告書

2012年6月4日

NPO 法人
日本ファンドレイジング協会
代表理事 堀田力 様

監事 浅野晋
同 脇坂誠也



私たちは、2011年度（2011年4月1日から2012年3月31日まで）の事業報告及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私たちは、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、団体の業務は法令及び定款に基づき適正に処理されているものと認められた。

よって、私たちは、上記の業務報告書及び計算書類が、NPO 法人日本ファンドレイジング協会の2012年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。